

trivia ■皮膚科のトリビア■ 162

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで見聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

好酸球性脱毛症

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から(平成29年9月23日)

40歳代の女性。顔面の腫脹、頭部にも同様の腫れと脱毛が生じた。頭皮は肥厚し浸潤がある。手指と口唇にしびれ感あり。採血ではWBCが $8,500/\mu\text{L}$ で好酸球が20%。病理組織は好酸球が毛包周囲に稠密に浸潤し、周囲の真皮、皮下組織にも及んでいた。ステロイド局注で改善した。

「アトピー性皮膚炎でもなく、掻破による影響でもないとのこと。好酸球が直接毛包に障害を与えたようだ。太藤病が頭皮に生じたと考えるのがよさそう。好酸球が浸潤する病態があればおこりうる事象として認識しておこう」。

「ような部位に紫斑があるかの検討が必要だと思った」。

間歇性跛行におけるPADと脊椎疾患の鑑別

西区医師会学術講演会から(平成29年10月12日)

間歇性跛行はその原因が抹消動脈疾患か脊椎疾患かの鑑別が重要。脊椎疾患では前屈で楽になるのが特徴。歩けなくなったらどうやって休むかを聞くとよい。座り込むのが脊椎疾患。PADでは立ったまま休むことが多いので、鑑別に役立つ。

「とはいえ、間歇性跛行を主訴に皮膚科を受診する患者は多くない。皮膚科でみるPADは、足趾の潰瘍ができてしまったあと、つまりFountainのIVばかりである」。

列序性紫斑は脳血管障害と関連する

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から(平成29年9月23日)

側腹部や四肢屈側に列序性に配列する点状紫斑を生じた症例に脳出血や脳梗塞が生じた。側腹部などは終動脈の穿通枝が分布する部位であり、脳血管障害をおこしやすい部位の血管に似ていることから、こういった紫斑が脳血管障害発症リスクのマーカーとして有用かもしれない。

「皮膚生検は施行されておらず、病理組織は不明。急性期の脳血管障害の患者にこの

マンゴーによるアナフィラキシーはライチと交差反応がある

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から(平成29年10月28日)

ライチ摂食後に膨疹、呼吸困難を生じた既往のある30歳代女性。マンゴージュースを飲んだ1時間後に膨疹、3時間後には全身に広がり、冷や汗と意識消失をきたした。特異的IgEはマンゴー：class3、ブタクサ：class6、ヨモギ：class6。プリックテストでウルシ科のマンゴー、カシューナッツ、ピスタチオで陽性。ライチ、ヒマワリの種、ハ

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

チミツも陽性。

「接触皮膚炎ではなく、即時型のアレルギーで、花粉による感作、つまりpollen-food syndromeと考えてよさそう。キク科のヨモギはピスタチオとの交差反応があることはThermo Fisher scientificのHPにも記載されている。ライチはウルシ科ではないが、同系列のムクロジ目ムクロジ科で、交差反応も報告されている。植物の分類は真菌以上にむずかしい」。

中毒性表皮壊死症(TEN)の治療薬としてのG-CSF

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から (平成29年10月28日)

脊髄炎の治療で用いた牛牡腎気丸によると思われる滲出性紅斑から、粘膜病変を伴うStevens-Johnson症候群に進展し、さらにTENへと移行した症例。ステロイドパルスと免疫グロブリンで加療を行ったが表皮剥離が拡大傾向。その後発熱性好中球減少症をきたし、抗菌薬とG-CSF製剤を使用したところ急速に上皮化が始まった。

「たまたま、ではなく、過去にも同様の報告があるとのこと。機序については不明だが、薬剤による骨髓抑制が解かれて、骨髓幹細胞が復活し、先天性表皮水疱症と同様に、潰瘍化した皮膚の修復に関与したのだろう」。

耳たぶの皺は脂肪肝のサインだった

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から (平成29年10月28日)

耳たぶの皺 (Earlobe creases) は耳垂を斜めに横断する皺で、以前から心血管イベントとの関連が指摘されている。今回は製造業に従事する腹部超音波検査を施行した398人の男性従業員を対象に、検診結果を皺のある66人と皺がない332人とで比較した。その結果、収縮期血圧、AST、 γ -GTP、中性脂肪、HDLコレステロール、脂肪肝の有無で有意差がみられた。耳たぶの皺は、検診医にも認知されるべき所見であると考えられる。

「多くの対象者からの統計的解析なので、信頼性は高そう。女性ではどうなのかも知りたいところだ。明日からさっそく、耳たぶの所見の記載をしよう」。

